



クビアカツヤカミキリの早期対策

2015年に大阪府への侵入が確認された特定外来生物クビアカツヤカミキリによる被害を最小限に食い止めるために、分布拡大状況の調査などを行っています。

クビアカツヤカミキリとは？

- 中国やベトナムなどが原産の昆虫です。
- 全体が黒く光沢があります。頭部の下（前胸の一部）が赤く、ジャコウのような匂いを放ちます。
- 繁殖力が非常に高く、サクラ、モモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を幼虫が食い荒らすことで、木が弱り枯死してしまうため、2018年1月に**特定外来生物**に指定されました。



クビアカツヤカミキリ（成虫）
体長は2.～4 cm



クビアカツヤカミキリの被害木
根元には幼虫が排出したフラス（木くず・糞の混合物）が大量に見られます

日本国内への侵入状況



- 日本では、2012年に愛知県で初めて被害が確認されました。
- その後、分布が広がっており、2024年9月時点で1都2府11県で確認されています。
- 定着の進んでしまった地域では、花見を楽しませてくれるサクラ（ソメイヨシノ）や、モモなどの果樹が大きな被害を受けており、多くの木が伐採される状況となっています。

大阪府内での分布拡大状況



- 大阪府内では2015年に大阪狭山市で初めて確認されました。
- 2017年7月～10月に南河内地域を中心に被害状況を調査した結果、5市1町に分布が拡大していることが明らかになりました。
- その後、2024年9月末までには市町村からの被害報告により、29市町村での被害を確認しました。
- 分布拡大や被害の発生を最小限に食い止められるように、研究所一体となった取り組みや他機関との連携を進めています。
- 被害対策等の詳細については、研究所が作成した「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書（改訂第5版）」をご覧ください。



https://www.knsk-osaka.jp/nourin/info/doc/2024032200014/file_contents/Tebiki5ver.pdf